

ので,  $c$  は  $T_e G$  上の直線とみなす. このとき,

$$\begin{aligned} (d\exp_G)_{0_e}(v) &= \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} (\exp_G \circ c) = \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} \exp_G(tv) \\ &= \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} g_{tv}(1) = \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} g_v(t) = v \end{aligned}$$

が示される. このように,  $T_{0_e}(T_e G)$  と  $T_e G$  を同一視することにより,  $(d\exp_G)_{0_e} = \text{id}_{T_e G}$  をえる. つまり,  $(d\exp_G)_{0_e}$  は線形同型写像なので, 逆関数定理 (定理 4.4.1) により主張が示される.  $\square$

注意  $g_G$  を  $G$  の両側不変な擬リーマン計量, つまり, 任意の  $g \in G$  に対し  $L_g^* g_G = g_G, R_g^* g_G = g_G$  を満たす擬リーマン計量とする. このとき, 擬リーマン多様体  $(G, g_G)$  の  $e$  における指数写像  $\exp_e$  と, 上述のリー群  $G$  の指数写像  $\exp_G$  は一致することが知られている.

次に, リー群, およびそのリー代数の例をいくつか紹介する.

例 6.1.1.  $n$  次一般線形群  $GL(n, \mathbb{R})$  のリー代数  $\text{Lie}(GL(n, \mathbb{R}))$ , および指数写像  $\exp_{GL(n, \mathbb{R})}$  を求めてみよう. この節の最初の方で述べたように  $GL(n, \mathbb{R})$  はベクトル空間  $\mathfrak{gl}(n, \mathbb{R})$  の開集合なので,  $GL(n, \mathbb{R})$  の単位元  $E_n$  (これは  $n$  次単位行列) における接空間  $T_{E_n} GL(n, \mathbb{R})$  は  $\mathfrak{gl}(n, \mathbb{R})$  と同一視される.  $A \in T_{E_n} GL(n, \mathbb{R}) (= \mathfrak{gl}(n, \mathbb{R}))$  に対し,  $\widehat{\exp} A$  を  $\widehat{\exp} A := \sum_{k=1}^{\infty} \frac{A^k}{k!}$  によって定義する. 右辺の級数は収束することが示される (文献 [Che] 等を参照).  $c(t) := \widehat{\exp} tA$  とおく.  $A$  に付随する左不変ベクトル場  $X^A$  は,

$$\begin{aligned} X_B^A &= (dL_B)_{E_n}(A) = \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} L_B(E_n + tA) \\ &= \left. \frac{d}{dt} \right|_{t=0} (B + tBA) = BA \quad (B \in GL(n, \mathbb{R})) \end{aligned} \tag{6.1.2}$$

によって与えられる. それゆえ,  $X_{c(t)}^A = (\widehat{\exp} tA)A$  をえる. 一方,

$$c'(t) = \left( \sum_{k=1}^{\infty} \frac{t^k A^k}{k!} \right)' = (\widehat{\exp} tA)A$$

となる. ゆえに,  $c'(t) = X_{c(t)}^A$  が示される. また, 明らかに  $c(0) = E_n$  が成り立つ. これらの事実から,  $c(t) = g_A(t)$  が導かれる. 特に,